

# 中国 桂林・香港を訪ねて



昨年、はじめて中国を訪れる機会を得て、桂林と香港の二都市を訪問した。アジアもフィールドに住宅研究をされている名城大学の海道教授・福島教授等の視察に同行させていただいたもので、同時に桂林では名城大学の学生の国際研修プログラムも実施され、一部に参加させていただいた。今回そこで得た中国桂林と香港の現状をお伝えしたい。

## 風光明媚な観光都市・桂林

桂林は、中国南部の広西チワン族自治区の北東部に位置し、四方を山で囲まれた自然豊かな都市である。水の都ともいわれ、市内には灕江(りこう)と桃花江(とうかこう)二つの川と四つの湖があり、これらを合わせて「両江四湖(りようこうしこ)」と呼び、それら周辺には公園が整備され、市民の憩いの空間になっている。また、灕江沿いに広がるカルスト地形が生み出した景観は、山水画そのもののようで、観光客を魅了してやまない。桂林市内から南約七〇キロに位置する陽朔(ようさく)まで5時間程かけて下る「灕江下り」は、山水画の風景を存分に堪能できる。

桂林市内でもいたる場所からカルストの山々を見ることができ。正確なところは不明だが、タクシー運転手の話では、この景観を保つため都心部では高さ制限が設けられており、十階以上の建物は建てられないとのこと。近年開発が進められている桂林市の桂林新区といわれる地区では、大規模な街区を単位とした超高層マンション群が建設されているが、都心部では京都のように景観を重視した政策が進められているようである。

## 電気バイク天国

市内中心部を歩いていると、バイクの

交通量の多さに圧倒される。そのほとんどが電気バイクというから二重の驚きである。幹線道路には車道と歩道の間にバイク専用の道路があり、交差点にはバイク専用の滞留所もある。名城大学の国際研修プログラムで実施された桂林理工大学とのワークショップでは、現地の学生から、法律が未整備で無免許で運転できることや、利用者の意識やマナーの低さが課題として挙げられていた。唯一の公共交通機関である市内バスが幹線道路沿いしか通らないため、車よりも安価で小回りがきくバイクが浸透したようだ。

## 賑わうまちな繁華街

南北に流れる灕江と桃花江の間、桂林市の中央部に市内一の繁華街がある。二つの歩行街があり、夜には夜市がずらりと並ぶ。近くにはデパートもあるが、歩行街の方が品揃えは良く、地元住民と観光客との比率は六対四と地元住民の利用が多いようだ。中心部から離れた箇所には市場があり、こちらも地元住民で大変賑わっていた。

## 二千年の歴史を継承

桂林のまちの歴史は古く、紀元前二世紀に秦の始皇帝が桂林郡を設置して以降、桂林は嶺南地方(広東と広西をあわせた地区)の政治・経済・文化の中心地として栄えてきた。

桂林市の中心部にそびえる山、独秀峰の周辺を囲むように靖江王城がある。明代の靖江王の居城がおかれた場所、二七〇年あまり十四代の靖江王が王宮としていたが、その後幾度かの戦火に遭い王宮は焼失。城壁や城楼などは現存している。後に王宮は復元され、師範大学の施設として使われている。また、現在は、城下町の一部分において再生整備事業が進められている。驚いたことに八百年前の建物も現存していたそうだが、ほぼ全てを取り壊して新たに復元すること。日本では可能な限り保存したいところだが、中国では必ずしもそうではないようだ。再生する建造物の年代を秦か明か検討中とのことだが、どのような町並みになるのか、数年後の完成が楽しみである。桂林市の新たな観光名所になりそうだ。

## 一極集中都市・香港

南シナ海に面し、中国本土と接する新界、九龍半島、香港島のほか周囲二六二の諸島を含めて構成される香港。東京都の約半分の広さに約七二〇万人が住み、人口密度はマカオ、モナコ、シンガポールに次いで世界で第四位(Global note調べ)となっている。一九九七年にイギリスから中国に返還後、多くの資本家は経済的自由がなくなるのを恐れて香港から流出。一時は経済が停滞したものの、香港を一定の自治区とする「一国二制度」や、ビジネス経済面において香港が中国のゲートウェイとしてアジアと欧米をつなぐハブ機能に加え、近年の中国本土の経済成長によって香港経済も復活している。

## 香港のエネルギーの象徴?!

空港から都心部へ向かう車の中からみた光景にまず驚いた。想像以上にインパクトのある高層ビル群。都心部から少し外れの郊外に建つ高層ビル群はほとんどが住宅で、新しい開発地区では四十階以上あると思われる住宅の摩天楼が乱立している。いずれも超高密度で、ある意味、香港のエネルギーを象徴しているかのようである。観光客がこぞって訪れる香港

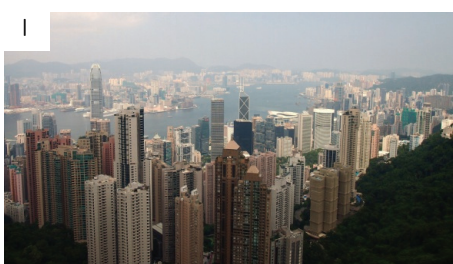
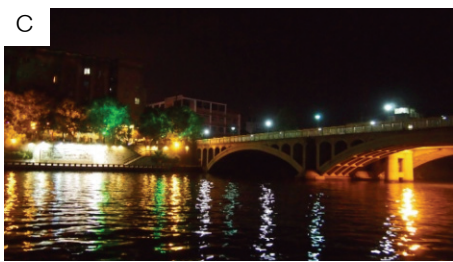
島の代表的な観光地、ビクトリアピーク(太平山頂)に上ると、都心部から少し先のニュータウンまで見渡すことができ、まちの様子がよくわかる。

また、都心部の商業エリアの活気もすさまじい。香港随一の繁華街がある九龍半島の中心部、「油麻地」や「旺角」といった地区には複数の歩行街があり、昼夜を問わず人で溢れかえり、ここでも香港のエネルギーが感じられる。高層ビル群と人の多さに圧倒されっぱなしであったが、都心部でも少し脇道へ入ると小さな商店や飲食店が軒を連ね、低層の古い建物など街の歴史が感じられる箇所もある。高層ビル群ではない光景に少しほっとする。

## 湾仔ヘリテージトレイル

香港には、歴史的建造物を巡る散策路「ヘリテージトレイル」なるものがある。香港島の「湾仔」や郊外の「屏山」といった

歴史的建造物が残る古い地区で近年整備が進められており、香港政府より散策マップも発行されている。今回、少しだけ「湾仔ヘリテージトレイル」に立ち寄ることができた。湾仔は、香港でも古くから開けた地区で、隣りの中環地区と並んで香港政治の中枢が多く集まる官庁街であり、一九七〇年代に入ってからはこの辺りで本格的に超高層ビルの建設が始まった。今となつては超高層ビルが目立つが、高層アパートができる以前に主流であった、一階が店舗で二階が住宅の伝統的な「ショップハウス」といわれる低層建築も多く残されている。地区の中心にある「ザ・ポーン」は、百年以上の歴史をもつショップハウス様式の古建築をバー&レストランに再生している。日本と同様、香港においても、歴史的建造物を継承する機運の高まりが感じられる。



A. 灕江沿いに広がる山水画の景色  
B. 靖江王城の城  
C. 夜になるとライトアップされる桂林市内の公園  
D. 桂林市内のバイク専用道  
E. 1913 年建築の香港最古の郵便局(湾仔)  
F. 桂林・中心部の歩行街  
G. 香港郊外のアパート群  
H. 再生された「ザ・ポーン」(湾仔)  
I. 香港中心部(ビクトリアピークからの眺め)